



なっとくんの

なるほどなっとくニュース

Community Museum「地域の宝・学校の宝」学校を中心とした地域の教育的環境の活用をめざして

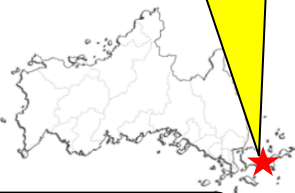
※なっとくんの「なるほどなっとくニュース」は、県立山口博物館ホームページでダウンロードすることができます。



安政の大地震と自然災害伝承碑

すおうおおしまちょうとのにゅう
周防大島町外人

1854年3月、開国を迫るペリーと江戸幕府が日米和親条約を結びます。
そんな激動の日本を、同年12月23日に安政東海地震、24日に安政南海地震と、マグニチュード8.4(推定)の大地震が襲いました。



「震源」は、地震が発生した地下の場所、「震央」は、震源の真上の地点のことです。

「震度」はある場所がどれくらいゆれたかを、「マグニチュード」は地震のエネルギーの大きさを表します。



これらの大地震では、津波が発生し、被害を大きくしました。

周防大島町外人では、安政南海地震による津波が川をのぼって、海拔16mの畑まで達したと言い伝えられています。

この言い伝えを風化することなく、次世代へ伝承するために、地域の人々によって左写真の碑が建てられました。



震央から約250kmも離れているうえに、上の写真のような高い場所まで津波が来たとは驚きです。

レッツ
チャレンジ!



東日本大震災で津波被害を受けた地域が、津波到達点に桜を植える運動を行っていることになって、碑の近くに桜が植樹されていました。(右写真)
地震などの災害を伝承するために、他の地域ではどのような取組が行われているのか、調べてみよう!

